



# 「教職の魅力」を考える 5

## ～ かながわティーチャーズカレッジ ② ～

令和6年6月 神奈川県立総合教育センター

神奈川県立総合教育センターでは、教育人材の確保に向け、教員を志望する大学生等を対象に「かながわティーチャーズカレッジ」を実施しています。前号に引き続き、「かながわティーチャーズカレッジ」を受講された、教職を目指す皆さんの声を紹介していきます。

### 自覚と責任、信頼関係の構築

- ・今回の講座では、**信頼される教員になる為に必要なこと**について学びました。教員に求められるコンプライアンスへの理解や、社会人として自覚と責任をもつことは、信頼される上で最も大切な事であり、教員は、子どもや保護者からの信頼をしっかり獲得していかななくてはならないことが分かりました。その為に必要な能力や心掛けることについて、「マンダラート」を用いて視覚化すると、自分に何が足りないかが明確になり、意識が高まったと思います。自分が将来、信頼される教員になれるよう、今からできることを一つずつ実践するなど、常に高いモチベーションを保って生活していきたいです。
- ・教員としてのコンプライアンスを、「自分事」として考えます。教員は、**子どもの安全・安心を守れる人**でなければなりません。「まだ、教員でない」という考え方でなく、自分が実習先やボランティア先、学校現場に行ったら、子どもたちからは「先生」と見られていることを自覚し、普段よりも行動や言葉、身だしなみ等に**意識を持つこと**を心がけようと思いました。
- ・教員の、社会人としての責任について、改めて考えることができました。特に不祥事については、被害にあった子どもへの影響、社会にもたれるイメージ、保護者からの信頼の失墜など、**自分だけではなく多くの人を巻き込むこと**を忘れずに、気を引き締めていきたいと思いました。教員として、**子ども達に胸をはれる人間**でいたいです。
- ・今回は「マンダラート」を使って、今の自分に必要なことについてまとめました。大きな枠組みから単語を抜き取り、掘りさげていくことで、**目標実現への手立て**がより具体的になり、今からできることとして、**言語化**することができました。これを常に目

に留まる場所に掲示して、日頃から意識して行うことができるとよいと感じました。

- ・信頼関係を築くうえで、「人間性」という言葉がよく出てきますが、一言で片づけてしまうのではなく、どうしたら信頼される人間性を備えられるようになるのかを常に考え、誠実さや思いやりを持って、子どもたちと、**対等な人間関係を築く**ことができるとよいと感じました。
- ・まず今のうちに、自分の言動を一日の最後に振り返る習慣をつけるため、短くてもいいから日記を書くことに取り組もうと思います。また、教員の不祥事は、自身のストレスも大きく関係することが分かったので、**自分が好きなことをする時間を確保**することや、そのための**タイムマネジメント**を心がけて生活したいです。

### 授業づくりを学ぶ

- ・授業づくりには、「学ぶ内容」の研究だけでなく、**子どもの実態や学ぶ環境を把握・分析**することがとても重要と感じました。そのために、教師としての視野を広くしていきたいと思いました。また、授業の目標を明確にし、**ゴールを分かりやすく**することで、**子どもが学びやすくなる**と分かりました。
- ・教え込むのではなく、**子どもたちから「引き出すこと」**が重要であり、子どもたちに考えさせ、学びを深めていくことが重要であると分かりました。さらに、**多くの子どもの様々な考え、その子ども自身の意見は**どうなのかを授業で引き出すことも大切だと学びました。教師が与える授業ではなく、**教師は子どもの学習をサポートする役割**であるということ、今後の授業づくりで心掛けたいです。そして、「楽しいだけの授業」ではなく、「興味を持って

る授業」を目指すという考えも印象に残り、新たに学べたことでした。

- ・今日の講座では、「何を身につけさせたいか」ということを改めて考えるきっかけとなりました。 どうしても、教材を教えるという発想になってしまいがちでした。 何を身につけさせ、今後はどう生かすことができるのか、といった視点をもって授業づくりを行いたいです。 また、授業での学びをどう将来に生かしていけるか、子どもたちに学習の意義を伝えることができるようになりたいです。

## 教職の魅力と責任

- ・今回、ともに学んできた仲間の考えを知るなかで「そういう視点もあるのか」との気づきを得ることができました。 教員採用試験に向け、自分がどういう教員になりたいのか「軸」がぶれないよう頑張っていきたいです。「子どもに楽しんでもらうためには、自分が楽しくなければ」胸に刻んで頑張ります。
- ・教師や学級それぞれだけでなく、学校全体が組織として学びを創っているのだと知りました。
- ・子どもが「明日も来よう」と思える学級づくりというフレーズがとても心に響きました。
- ・令和5年度に採用された先輩方からのお話を聞きました。 実際に現場に入ると、予想とは違う子どもたちの姿に出会うと思いますが、先輩方は、目の前にいる子どもの姿に合わせて授業に工夫を加えていることを知りました。 知識を教えることも大切ですが、まずは「学校に来よう」と思える雰囲気づくりを大切にしていきたいと思いました。 今回の講座を終えて、今の状況を全力で楽しみ、何かを成し遂げることを多く経験していきたいと感じました。
- ・本年度採用の先生方のお話を聞き、教師の仕事の一部をイメージすることができました。 仕事の大変さや過酷さもあるが、一方で、それらをうまくやりくりす

るための秘策も聞くことができ、少し安心できました。先輩方からの話に「今の時間を大切にする」という一言があり、先のことを考えることも必要ですが、今いる時間を大切に過ごし、将来に生かすことができるたくさんの経験を積み重ねていくことを心掛けていきたいと思いました。 自分自身の行動と発言に意図をもち、感情のままに伝えるのではなく、客観的に状況を判断し、適切な言葉がけを意識していきたいです。子どもと一緒に成長していくことを忘れないでいきたいです。

- ・先輩の先生方は、「子どもの成長を感じたときに、教員としての魅力を感じる」と話されました。 教員の工夫や心がけが子どもに伝わることで、より良い学びにつながるのだと知りました。 また、確かな情報や知識を子どもたちに伝えることはもちろん、言葉遣い、立ち振る舞い、自分の癖など、すべて見られている意識を持つことが大切だと学びました。 授業で、子どもたちを惹きつける工夫をし、最新の情報や正しい知識を持つために様々なことを学び、経験し、自分の言葉遣いや行動力を省察し、教師としての自覚と責任を深めていきたい。
- ・「教員になりたい」と強く思っていて、このティーチャーズカレッジに参加しましたが、心のどこかで、ずっと不安が拭い切れずにいました。 先輩の先生が、質疑応答の際に、「大変とは思いますが、嫌だとは決して思わない。」と仰っていたのを聞き、この不安が消えました。 このまま真っすぐ目標に向かって進んでいこうと、覚悟を持つことができました。 作成した「マンドラート」は、今の私を言語化したものだから、部屋に掲示しようと思います。 子どもたちの人生に関わり、影響を与える教員を目指す身として、今日の講座はとても心に響きました。 学んだことを今後の自分に活かして、成長していきたいと強く感じました。

令和5年度は、232名の方が「かながわティーチャーズカレッジ」を修了されました。様々な声をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

なお、令和6年度に拡充した「かながわティーチャーズカレッジ」については、総合教育センターのホームページに掲載しています。

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/kyoshoku/col lege-gaiyou.html>

